

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 石田 尚利

本研究は、昨今関心が高まっている死後画像診断に関し、読影に不可欠な死後画像に特徴的な所見を明らかにするため、非外傷性院内死亡患者における死後CT所見を検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 上腹部臓器内ガスの検討の結果、心肺蘇生施行は肝および腎内ガス発生と関係が認められた。心肺蘇生が主因とは限らないが、心肺蘇生が肝および腎内ガスを増やす可能性があると考えられた。
2. 上腹部臓器内ガスの検討の結果、心肺蘇生非施行下では肝・腎・脾・膵の各間においてガス発生程度に相関が認められた。心肺蘇生非施行下では臓器内ガスの主因は腐敗と考えられ、ガス発生は同様の速度で生じうる可能性が考えられた。
3. 心大血管における血液就下の所見と生前血液検査の検討の結果、心大血管における明瞭な血液就下の所見は、生前のフィブリノゲン高値と関係していた。したがって、死後CTにて心大血管の明瞭な血液就下の所見を認めた場合、死亡時にフィブリノゲン高値の状況であったと推定できると考えられた。
4. 生前CTと死後CTでの甲状腺の検討の結果、死後に甲状腺CT値が低下する可能性が示された。死戦期あるいは死亡に際し、甲状腺のヨード含有量が減少する、すなわち甲状腺ホルモンが放出されることを反映した所見である可能性が考えられた。

以上、本研究は非外傷性院内死亡患者における死後CT所見を検討したものであり、上腹部臓器内ガス、心大血管の血液就下、甲状腺CT値について死後画像に特徴的と考えられる所見を明らかにした。本研究は、とりわけこれまで少なかった非外傷性や心肺蘇生非施行の症例を対象にしており、黎明期にある死後画像診断の領域に一定の重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。